

2015 年度 入学 試験 問題

国 語

(試験時間 15:00~16:00 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(50点)

一八〇九年イギリスのシュルーズベリーという田舎町で、のちに世界で最も有名で偉大な生物学者の一人となったチャールズ・ダーウィンが生まれた。一八五七年に出版されたダーウィンの著作『種の起源』は、一九世紀以降の人々の生命観・世界観に大きな影響を与えることになる。地球上に存在するさまざまな形の生物は創造神が一度に作り上げたのではなく、時間とともに変化してきたのだらうという考え自体はダーウィン以前にも存在した。しかし、ダーウィンは自然選択と種の分岐というアイデアを発展させ、膨大な量の実証データと慎重な考察の末に彼の考えを発表したのである。それ以来、自然選択による進化、つまり、環境に適応した個体が多くの子を残し、そういった個体が生き残ることによって現存する多様な生物を生み出したという考えは、自然科学研究者のみならず一般にも広く受け入れられてきた。たとえば、鳥、コウモリ、昆虫の羽はどれもが空を飛ぶのに適した形をしており、非常に精密にデザインされている。これらの羽が空を飛ぶという共通の自然選択を受けて独立に進化した結果であることは多くの人が認めており、その精巧さにはただ驚くばかりである。

ダーウィンの自然選択の考えをもとにして人類の病気というものを考察してみようというのがダーウィン医学、または進化医学と呼ばれる考え方である。ランドルフ・ネシーやジョージ・ウィリアムズらによって広められたこのアイデアは、主に二つの考えから成り立っている。一つは、われわれが苦しめられる病気の症状が進化の観点から見ると実は適応的な意味を持っているという考え、もう一つは、病気というものはわれわれ人間がこれまでの環境に適応してきた結果の副作用であるという考えである。

前者の例としては、感染症によるいくつかの症状があげられる。風邪をひいたときにくしゃみがでるのは、喉で増殖するウイルスを排除しようとしている感染者の防御反応かもしれないし、(1)。このような進化の観点を取り入れることにより、われわれは何故風邪をひくときくしゃみがでるのか、そしてそれに対してどのような対処をすればよいのかがわかってくる。後者の例としては栄養過多による肥満があげられる。チンパンジーの祖先と約六〇〇万年前に袂たもとを分かってから数千年前に農耕を発

明するまで、われわれの先祖は長いこと狩猟採集により生計を立ててきた。体のタイシヤも限られたエネルギーをより有効に使うように進化してきただろう。したがって農耕や産業を手に入れたわれわれは必然的にエネルギー過剰の栄養状態にさらされることになる。肥満のリスク遺伝子にUCP1という遺伝子がある。この遺伝子にある変異を持つ人は肥満になるリスクが高いのだが、チンパンジーの遺伝子を調べてみると肥満型となっている。つまり、昔はエネルギーを効率的に使うタイプの遺伝子が有利だったはずなのに、現在はそれが病気の原因になり、最近になって新しく変異を起こした効率の悪いタイプの遺伝子が、現在ではケンジョウな遺伝子であると認識されていることになる。つまり、肥満という現象には歴史的な背景がある。⁽³⁾

適応という面から病気をとらえることが従来からの病気という概念に大きな影響を与えてきたことは評価すべきことである。ところが、適応的な説明のなかには厳密な検証が困難なものがある。そして、しばしば適応による説明が濫用されることがある。もしわれわれが「生物のあらゆる形質は適応の結果である」というドグマを背負ってしまったら、期せずして間違った解釈をしてしまうこともある。著名な遺伝学者の一人であるリチャード・ルーウィントンは、一九七〇年代に流行した社会進化学といわれる学問分野に対して厳しい批判を行った。社会進化学とは、人の行動や文化などを適応という観点から説明しようという学問分野である。ルーウィントンは多くの子供がホウレンソウ嫌いなわけを無理やりダーウィンの解釈するためにこういう例を出して皮肉った。ホウレンソウに含まれるシュウ酸はカルシウムの吸収を妨げるために子供の成長に良くないが、大人にとってそれほど害はない、むしろ健康に良いだろう。したがって子供のころはホウレンソウが嫌いで、大人になってから好きにさせる遺伝子が存在するであろう、と。彼はこういった説明はばかばかしいと一蹴した。

それでは実際のところはどうか。こういった議論はいまだに社会を騒がせることがあるが、科学者がある説を提唱するには提唱する側に論理的な証拠を提出する責任があるということは明らかである。上記のことを説明するには以下のことが必要であると考えられる。まず、ホウレンソウもしくはシュウ酸を含む野菜が苦味などとして感じられる特有な化学物質を含み、それを感知する遺伝的仕組みがなければならぬ。首尾よくその遺伝子を見つけることができたでしょう。その遺伝子の働き、もしくは発現調節機構は子供から大人に変わる過程で変化していなければならぬ。また、(5) 最後に、この遺伝子は

シニウ酸を含む食物を取らない生物では存在しないかまったく別の働きをしているだろう。この遺伝子を探すことに一生をかける科学者もいるかもしれない。彼はもしかすると遺伝子を見つけて進化学の分野で有名になれるかもしれないが、まったく何も見つけられずにロトウに迷うかもしれないだろう。ちなみにシニウ酸の苦味は苦味受容体遺伝子によって感知されていると考えられるが、ヒトはこの遺伝子を四〇種類以上持つており、他の味覚（甘味や旨味）に比べて複雑な遺伝的要因を持っている。この苦味受容体のレパートリーの違いが自然選択の影響を受けていることを示唆するデータは存在するが、それぞれの遺伝子が多様な苦味分子と複雑に対応しているため、実際の苦味に対する感受性と遺伝的要因とを結びつけることは、いくつかの特殊な例を除いて今のところ困難である。また、もしかすると苦味に対する好みの変化は神経系の問題であって、苦味の受容体を調べることでは結局のところ何も説明できないかもしれない。

この例が示すように、生物の形質のうちの多くが自然選択によって進化したことについてわれわれは疑いを持たないが、(7)。そうでなければ進化の話というものは単に面白い適応的な説明を付け加えるだけのものになってしまっただろう。

あらゆる形質に適応的な説明をつけることは非常に魅力的なことである。しかし、われわれ科学者はより厳密な態度で研究を行っており、それこそがサイエンスフィクションと科学論文をわけているものである。厳密な態度とは、イデオロギーや研究対象を問題にしているわけではない。科学で行われている一般的な手続きを守ることである。これまでの批判を克服することによって発展してきた現代の進化研究は、長期にわたる野外観察または適切に計画された実験室での観察を行うことにより、多くの適応現象とその理由を明らかにしている。たとえば、グラント夫妻によるグーウィンフィンチのクチバシに関する研究では、あるフィンチ種におけるクチバシのサイズと形が競合種の出現によって徐々に変化し、食べ物や死亡率などが変化する過程を三五年近くという長い期間の観察により示している。また、大腸菌などの世代時間が短く実験室での培養が可能な生物種では、さまざまな進化実験が行われており、どのような形質がどのような適応度（大腸菌の場合は増殖率が適応度に近似できるので解釈が容易である）を持っているかについて明らかにされてきた。このような研究により、われわれは進化を実際に目の当たりにすることができるのである。

ただし、これらの科学的手法にも限界は存在する。ここでは二点その問題点を挙げよう。一つは観察における誤差と観察期間の制限である。特に野外観察では環境を正確にコントロールすることは難しいために、どうしても観察結果に幅が出てしまう。研究者は観察数を増やすことによってこれに対処するが、自然選択の効果が弱い場合には、それを検出するのに膨大な量の観察が必要になる。もし一人の研究者が一生かかっても観察できないような弱い自然選択の効果があつたとすると、その検出は事実上不可能となる。したがって、ある形質と適応度の間に関係が見られなかったとしても、本当に関係が存在しないのか、それとも現在の観察数では見つからないくらい効果が弱いのかについての区別ができない(実験では見つけれないほど弱い効果を持つ形質であつても、十分強力な進化の原動力になりうる)ことが理論により示されている。現在のわれわれが持つ技術や手法で認識できないほど小さい効果を持つものがあつた場合に、それが存在するとするかしないとするかは哲学的な問題であるのでここでは深く触れないでおこう。

二つ目の問題点は、形質の相関と多面性である。生物のある形質の変化は、別の形質の変化と相関することがよく知られている。先ほどのフィンの例では、クチバシの幅と長さには強い相関があるため、長さが重要なのか、それとも幅が重要なのかを区別することは不可能である。この現象の基盤となる一つのメカニズムは、一つの遺伝子が多面的な働きを持っていることである。

以上のことを考えると、ヒトの進化を考える場合に、環境をそろえて長期間の研究を行うことは他の生物の場合を超えて困難であることが予想される。ところが、実際の実験は困難でも、現在得られる様々なデータから⁽⁹⁾セイゴウ性の取れる仮説を提唱することは可能である。シセンの策であるが、進化のような長い歴史を扱う研究分野では重要な科学的方法である。

(太田博樹・長谷川真理子編著『ヒトは病気とともに進化した』による)

〔問一〕 空欄(1)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A あるいは清潔すぎる環境に慣れ過ぎた現代人の身体の欠陥を示すものであるかもしれない
- B またウイルスが人間の喉を増殖の場所にすることができていない事態を表すのかもしれない
- C さらにはウイルスがなかった原始時代の身体の状態を取り戻そうとする反応かもしれない
- D 反対に防御できないウイルスが存在することを示す身体の敗北宣言であるかもしれない
- E 逆に感染者にそうさせて自分の活動範囲を広げようとしているウイルスの戦略かもしれない

〔問二〕 傍線(2)(3)(6)(9)(10)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問三〕 傍線(4)「歴史的な背景がある」とあるが、その内容としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 肥満はわれわれが農耕を獲得する以前の環境に適応してきたことの副作用である。
- B 肥満はわれわれの身体にある効率の良い遺伝子が悪い遺伝子に変異したことの結果である。
- C 肥満はわれわれが農耕や産業を中心にした新しい社会に適応したことの副作用である。
- D 肥満はわれわれの社会が人間にある効率の良い遺伝子を排除したことの逆説的結果である。
- E 肥満はわれわれがエネルギー効率の悪い遺伝子を長く軽視してきたことの副作用である。

〔問四〕 本文の趣旨にしたがうと、空欄(5)にはどのような文章が入るか、「ホウレンソウ好きの子供」、「ホウレンソウ嫌いの子供」という言葉を入れて五〇字以内で書きなさい。(句読点は一字に数える)

〔問五〕 空欄(7)に入れるのもつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 形質がそもそも自然選択によって進化するののかという問題をまず検討してみる必要がある
- B 形質の自然選択による進化にわれわれが疑いをもたない理由をまず説明しなければならぬ
- C 一つ一つの形質が自然選択による進化でどのような影響を与え合つたのかという判断は難しい
- D 自然選択による形質の変化を適應という視点以外からも十分に検討してみなければならぬ
- E それぞれの形質がどのような自然選択によって進化してきたのかの判断は慎重に行わなければならぬ

〔問六〕 傍線(8)「哲学的な問題」とあるが、その説明としてもつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 自然現象に関する原理的な問題
- B 科学的には論証が不可能な問題
- C 先に仮説があり立証が後になる問題
- D 科学のあり方そのものを批判する問題
- E 時代の支配的思想により左右される問題

〔問七〕 次の文ア～オのうち、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア グーウィンは自然選択と種の分岐という自らのアイデアから進化医学という分野を新たに開拓した。

イ リチャード・ルーウィントンは、社会進化学を批判し、ダーウィンの適応による進化という思想を否定した。

ウ 科学的証明には野外観察と実験室の実験が有用であるが、ヒトの進化の証明にはこの二手法には限界がある。

エ 環境に適応した生物が子孫を残し生き延びた、という以前からあるアイデアをダーウィンは忠実に受け継いだ。

オ 形質の自然選択による進化は、どれも長期間を要するので、進化の研究者は証明のために仮説を使わざるをえない。

高畑勲監督のアニメーション映画『かくや姫の物語』を考察するにあたって、まずは一つの簡単なテーゼを掲げよう。それは「日本の神はしばしば人間の傍らで成長する」というテーゼである。

例えば、折口信夫は『竹取物語』のかぐや姫、『丹後國風土記』の姫神、そして『源氏物語』の紫上を例に出しながら「神聖な女性を養うて、成長して

た」と述べる。日本の物語においては、神聖な存在はしばしば未完成のものとして現われ、人間によって養育された。未熟な個体のなかに含まれた

(1) を熟成させるプロセスが、『竹取物語』をはじめとする日本の物語文学を特徴づけた。言うまでもなく、これは西洋的な全知全能の神のイメージとは異質である。これから神になろうとする存在、すなわち奇蹟マジックの種を含んだ存在を気長に守り育て、やがて本当の神に変えていくという型の説話が日本で愛好されたのは、いかにも興味深い。

この問題を別の角度から言えば、日本の神はよそよそしく (2) なものではなく、人間の世界と随分近いところにいるということである。例えば、柳田國男の名論文「神を助けた話」は狩人が神を助けたという伝承を紹介しているし、中国の著名な文筆家である周作人も、中国の神がどこか官僚的であるのに対して、日本の神が人間たちと親しげに交流し、共食することに

驚いていた。神を自らの近辺にお迎えして、ときには援助し、ときには時間をかけて育てるということに、日本人は大いなる喜びを見出し、物語の種として受け継いできたと言ってよいだろう。

してみると、日本の物語において「神の容れ物」が重要な役割を果たすのも、決しておかしなことではない。例えば、折口は神がうつば舟、たまご、ひきこなどに乗って他界からやってくるという物語的趣向に着目している。神的な「たまご」(靈魂)は必ずしも単独で人間のもとにやってくるのではなく、しばしば自らを保護する媒体メディア⇨容器とともに現れる(桃太郎や一寸法師はその最たる例である)。そればかりか、折口の紹介する、神の宿った「石」の成長譚せいちやうたんからも了解されるように、ときには神の容器それ自体も神とともに成長するのだ。神の成長⇨時熟、及びその成長を保護する媒体⇨容器に対する鋭敏さ——、それは当

然のことながら、「もと光る竹」という容器に籠るかくや姫を主人公とする『竹取物語』にも見出すことができる。

興味深いことに、こうした神の日本の特性は今日のアニメーションにおいても継承されている。例えば、高畑の盟友である宮崎駿監督の『崖の上のポニョ』は、文字通り「小サ子」としての神の成長を描いた作品である。ポニョは未完成の幼体のまま、小さな瓶 \equiv 容器に入って主人公の少年のもとに流れ着く。やがて気泡を食い破って外界に飛び出したポニョは、漫画的な洪水とともに、再び少年のもとを訪れ、人間の姿に成長する。そして、この二人は一面の原始の水に覆われた世界を、巨大化したおもちの「舟」に乗って漂流する……。水界と関わる「小サ子」であるポニョは、伸縮自在の「容器」に包まれた状態で「成長」を果たす。とはいえ、それは決して程よい成長ではなく、グロテスクさすら感じさせる異形の成長だと言わねばならない。宮崎はめちやくちやな力業と空想（妄想？）によって、日本的な「神を養う物語」を現代の奇々怪々なアニメーションとして再生することに成功した。

だが、私たちはただちにこう問うこともできるだろう。もし神を成長させる環境自体が根こそぎ破壊されてしまったとしたら、いったい神はどうなるのだろうか。と。なるほど、確かに幼い神としてのポニョは破壊的 \equiv 漫画的な水にくるまれて異形の成長を果たすことができたが、それは結局のところ、神を成長させる容器が今やひどく不安定になっていることの裏返しではないのか？ そのような世界で、神は今後も円満に成長することができるのだろうか？——私の考えでは、『かくや姫の物語』はまさにこれらの問いの周回を巡っている。

むろん、原作の『竹取物語』からして強力な批評性を含んでいたことも見過ごされるべきではない。例えば、『竹取物語』を「贖罪の文学」と呼んだ民俗学者の高崎正秀は、かくや姫が「権威に屈しない王朝文芸中のたった一人の女性である」ことを強調していた。貴族や帝^{みかど}らを全員袖にしてしまう『竹取物語』は、見方次第ではきわめて不遜あるいは不敬な物語である。そこでは、地上の権威ではなく、天上の高貴がすべてに優越するのだ。後に紫式部が『源氏物語』の絵合巻で「かくや姫の、この世の濁りにもけがれず、はるかに思ひのほれる契りたかく」と評したことは、かくや姫の高潔な意志を物語っている。

そして、この誇り高い神は、言語世界の新たな創出にも結びつけられた。五人の求婚者の滑稽なエピソードからは「はぢをす

つ」「たまさか」「あへなし」「あなたへがた」「甲斐あり」という新語が生み出され、かぐや姫の残した不死の薬を燃やした山は「富士の山」と命名される。神Ⅱかぐや姫が天上で犯した自らの罪を地上で償うとき、世界はリニューアルされ、言葉や地名が新たに湧き出してくる。かぐや姫の成長と贖罪は、そのまま地上という「容器」をも豊かにしたのである。

それに対して、高畑版の『かぐや姫の物語』では容器Ⅱ地上の成長が見られない。そして、かぐや姫自身も故郷の野山を離れたせいで、最善の「成長」の機会を逃す。そのために、この作品には強烈なリグレットの念がみなぎっている。竹取の翁はかぐや姫の気持ちを分かってやれなかったことを悔やみ、かぐや姫はこの世にはもういたくないと願ったせいで月への帰還を余儀なくされ、やはり大いに後悔する。本当ならばもっと幸せな成長があったはずなのにという身を裂く悔しさ、それに続く諦めが、『かぐや姫の物語』の主旋律となっている。高畑は「神の成長」という日本的モチーフを踏まえつつ、その困難さを描いていた。

(福嶋亮大「神の成長」による)

注 周作人……中国の作家・日本文学研究者(一八八五—一九六七)。

小サ子……神話・説話に登場する体のごく小さい

子供。成人して大事業を成し遂げ、変身して幸福を得る話が多い。

リグレット……後悔。

(問一) 空欄(1)(2)に入れるのもっとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。

A 個体

B 神聖

C 神格

D 馬耳東風

E 人格

F 居丈高

〔問二〕 傍線(3)「強力な批評性」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 男性権力者中心の地上の価値観に対して、成長する女性という視点を示したこと。
- B かつて天上で犯した自らの罪を、地上的権威への反抗によって償うことができたこと。
- C 地上の貴族や帝の権威さえ、天上界の価値観をもつ姫から見れば問題にならないこと。
- D 地上の権威者たちの熱烈な求愛を敬遠し、天上界の存在としての誇りを守ったこと。
- E 姫が成長し昇天することができたのは、容器としての環境が必要不可欠であること。

〔問三〕 傍線(4)「言語世界の新たな創出」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 五人の求婚者の滑稽な失敗譚や姫の帝への拒絶から生まれた数々の言葉や地名は、地上の権力者たちも無力であることを認識させた、ということ。
- B 五人の求婚者の滑稽な失敗譚や姫の帝との別れから生まれた逸話は、天上と地上をつなぐ言葉や地名を生み出して物語世界を豊かにした、ということ。
- C 五人の求婚者の滑稽な失敗譚や帝との劇的な別れは、世の中に有益な教訓譚や新たな土地伝説を生みだし、人々の生活に役立った、ということ。
- D 姫が五人の求婚者や帝を残して天上に旅立つまでの種々の逸話から生みだされた言葉や地名は、世界を新しくする力になった、ということ。
- E 姫が次々と求婚者たちを拒絶した出来事は新たな地名を生み出し、人々は土地の記憶によって彼女の天上的な高潔さを忘れなかった、ということ。

〔問四〕 傍線(5)「その困難さ」とあるが、なぜ「神の成長」は「困難」なのか。その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 「竹取物語」と異なり、「かぐや姫の物語」では新語を作り出すには至らなかったため、世界をリニューアルすることができなかったから。

B 「成長する神」の主題を表現するには、聖なる天上と俗なる地上の劇的な対立が不可欠だが、現代ではそのような構想力が失われているから。

C 紫式部は「源氏物語」の絵合巻でかぐや姫を高潔な存在と見なしたが、高畑勲監督の作品では姫を後悔する人間的な少女として描いてしまったから。

D 伸縮自在の容器に包まれて成長する少女を描いた宮崎駿監督と異なり、「かぐや姫の物語」では故郷を捨てた少女の物語として描いてしまったから。

E 「神の成長」には容器の成長が欠かせないが、現代ではその容器としての環境自体が失われつつあるので、成長譚を描くのは無理であるから。

〔問五〕 次の文ア～オについて、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 未熟な神が人間の世界で親しく交流して成長することは、日本の物語文学の一つの特徴と考えられる。

イ 『竹取物語』と『かくや姫の物語』は、地上の人間世界と天上の聖なる世界との価値観の対立を描きだしている。

ウ 全知全能の神のイメージが強い西洋とは異なり、日本では人間の傍らで「成長する神」を見守るといふ説話が愛好された。

エ 宮崎駿監督の『崖の上のポニョ』と高畑勲監督の『かくや姫の物語』は、「成長する神」を描く手法において共通している。

オ 桃太郎や一寸法師の物語は「小サ子」が単独で登場するのではなく、自らを保護する媒体と共に現れるという趣向をもっている。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

帥殿は今年となりては、いとど御心地重りて、今日や今日やと見えさせたまふ。御心地いみじうならせたまへば、この姫君二所、藏人少将とを並め揃えて、北の方に聞えたまふ。

「己なくなりなば、いかなる振る舞ひどもをかしたまはんずらん。世の中に侍りつる限りは、とありともかかりとも、女御、后と見奉らぬやうはあるべきにあらずと思ひとりて、かしづき奉りつるに、命たへずなりぬれば、いかがしたまはんとする。今の世の事とて、いみじき帝の御むすめや太政大臣のむすめと言へど、みな宮仕へに出で立ちぬめり。この君達をいかに欲しと思ふ人多からんとすらん。それはただ異事ならず、己がための末の世の恥ならんと思ひて。男にまれ、何の宮、かの御方よりとて、言もよう語らひよせては、「故殿の何とありしかばかかろぞかし」と心を遣ひしかばなどこそは、世にも言ひ思はぬ。母とおはする人、はたこの君達の有様をはかばかしう後見もてなしたまふべきにあらず。などで世にありつる祈、神仏にも「己がある祈、先に立てたまへ」と、祈り請はざりつらんと思ふが悔しきこと。さりとして尼になし奉らんとすれば、人聞き物狂ほしきものから、あやしの法師の具どもになりたまはんずかし。あはれに悲しきわざかな。まろが死なん後、人笑はれに人の思ふばかりの振る舞ひ有様揃てたまはば、必ず恨みきこえんとす。ゆめゆめまろがなからん世の面伏せ、まろを人に言ひ笑はせたまふなよ」など、泣く泣く申したまへば、大姫君・小姫君、涙を流したまふもをろかなり。ただあきれておはす。北の方もいらへたまはん方もなく、ただよよと泣きたまふ。

松君の少将などを「取り分きいみじき者に言ひ思ひしかど、位もかばかりなるを見置きて死ぬること。われに後れていかがせむとする。魂あればざりともとは思へども、いかにせんとすらん。いでや、世にあり煩ひ「官・位人よりは短し。人と等しくならん」など思ひて、世に従ひ、物覚えぬ追従をなし、名簿うちしなどせば、世に片時ありめぐらせじとす。その定ならば、ただ出家して山林に入りぬべきぞ」など、泣く泣く言ひつづけたまふを、いみじう悲しと思ひ感ひたまふ。げに理に悲しともをろかなり。

中納言殿あはれに聞き感ひたまひて「何かかくは思しつづくる。けにみなさることどもには侍れど、などてかいと事の外には誰もおはせん」など、いみじう泣きたまへば、「君をこそは年頃子のやうに思ひきこえ侍りつれど、かく我も人もはかばかしからでやみぬる事の、あはれに口惜しき事。道雅をなをよく言ひ教へたまへ」など、よろづに言ひつづけ泣きたまふ。

(『栄花物語』より)

注 帥殿……藤原伊周。 藏人少将・松君の少将……藤原道雅。

名簿……名前を書いた札。 臣下が主君に提出する。

中納言殿……藤原隆家。

〔問〕 傍線(1)「御心地いみじうならせたまへば」、(5)「先に立てたまへ」、(7)「あきれておはす」の解釈として、もっとも適当

なものをそれぞれA、Dの中から選び、符号で答えなさい。

(1) 御心地いみじうならせたまへば

- A ご病気が快復なされたので
- B ご気分がさわやかになられたので
- C ご心境が急変なされたので
- D ご体調が深刻になられたので

(5) 先に立てたまへ

- A 自分よりも先にあの世に行かせてください
- B 自分が身代わりとなって先に行かせてください
- C 自分よりも上位の官職につかせてください
- D 自分の代わりに朝廷の第一人者にしてください

(7) あきれておはす

- A 自分たちの行く末を受け入れていらっしやる
- B 帥殿の言葉を聞いて失礼を怒っていらっしやる
- C 自分たちの行く末をあきらめていらっしやる
- D 帥殿の言葉を聞いて途方に暮れていらっしやる

〔問二〕 傍線(2)(4)(8)(10)の主語としてもつとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 帥殿 B 姫君 C 藏人少将 D 北の方 E 中納言殿

〔問三〕 傍線(3)「とありともかかりとも、女御、后と見奉らぬやうはあるべきにあらず」とあるが、どのような気持ちを表した

ものか、もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A どのような事情があつても、姫君たちを女御や后のところに宮仕えさせる希望。
B どのような手段をとつても、姫君たちを女御や后の地位につけようとする決意。
C どのような事態になつても、姫君たちを女御や后とともに見守りつづける意志。
D どのような批判を受けても、姫君たちを女御や后には決してしないという覚悟。
E どのような要請があつても、姫君たちを女御や后のところに出仕させない決心。

〔問四〕 傍線(6)「泣く泣く申したまへば」とあるが、帥殿の言葉からうかがわれる彼の心境の説明としてもつとも適当なものを

左の中から選び、符号で答えなさい。

- A なによりも家族のことが気がかりで、いろいろと指図してみんなの幸福を願っている。
B 宮廷社会のこれからが気がかりで、家族にその対処をあれこれと言ひ残そうとしている。
C 残される家族が気がかりではあるが、それよりも自分の評判の方が気になっている。
D 政争に敗れた恨みが消えることがないので、家族に託して復讐ふくしゅうを果たそうとしている。
E 宮廷の政権争いが嫌になつたので、家族ともども出家して仏道修行を志そうとしている。

〔問五〕

傍線(9)「げにみなさることどもには侍れど、などてかいと事の外には誰もおはせん」の解釈として、もっとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A いろいろと不安がたくさんありますが、なんとかして私が皆さまを守りましょう。
- B お考えはすべて当然のことですが、誰にもそれを避ける手立てがないでしょう。
- C なるほどおっしゃることはわかりますが、皆さまはそんな風にお考えではありません。
- D 本当に妥当な指摘ですが、どうすれば誰もがそんな不幸にならずにいられるでしょう。
- E ご心配は全くごもっともですが、どなたもそんなひどいことになるわけがありません。